

令和4年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
1 学校運営の充実	<p>(全体レベル)</p> <p>① 専門教育を深化させるとともに、農・商併設のメリットを生かし、地域や社会の要請を視野に入れた特色ある学校づくりをチームとして推進する。</p> <p>② 地域の行政や事業所等との連携を深め地域の教育力を生かした教育活動を展開する。</p> <p>③ 教職員研修の充実を図ることにより教職員の資質向上に努め、学校全体の教育力を向上させる。</p> <p>④ 教職員が高い倫理観と使命感を持って業務にあたるとともに、業務の効率化に努めワーク・ライフ・バランスを図る。</p> <p>⑤ ホームページ等を活用し、積極的に教育活動に関する情報発信を行い、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>⑥ 「とくしまの学校における働き方改革プラン」を推進する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 地域や社会に対応できる特色ある学校づくりの推進事業をチームとして推進</p> <p>② 「エンカル消費」の取組の推進</p> <p>③ 各教員が研修をとおして資質の向上</p> <p>④ 情報セキュリティポリシー遵守の徹底と出退勤管理システムの活用によるワーク・ライフ・バランスの適正化</p> <p>⑤ マスメディアを活用した広報やホームページの充実、学校行事の公開等、積極的な情報発信</p> <p>⑥ 働き方改革の推進</p>	<p>評価指標</p> <p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川を定期的に開催する。8回以上</p> <p>② 地域の行政や事業所等との連携を行う。年間4回以上</p> <p>③ 学校訪問や初任者研修など、研究授業を行う。年間6回以上</p> <p>④-1 職員共有サーバーの利用を有効に活用し業務の効率化を図るとともに、情報資産持ち出し管理シートの活用を実施する。100%</p> <p>④-2 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教職員全体での意思を統一する。ウイルスチェック 年6回以上</p> <p>④-3 出退勤管理システムを活用して、管理職が教職員の勤務時間を把握する。週1回</p> <p>⑤ 学校ホームページの更新 年100回以上</p> <p>⑥ 「働きやすい職場環境づくり」や「業務の効率化」を目指し、ICT環境を活用する。校内掲示板の活用回数 年30回以上</p> <p>活動計画</p> <p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の実施する日時をホームページやチラシの配布を通して地域住民の方々に周知する。</p> <p>② 「エンカルクラブ」を中心として、校内外での発表の機会を設けることにより普及・啓発に努めSDGsと「エンカル消費」の推進を図る。3回以上</p> <p>③ 研究授業の参観及び研究協議を実施し、授業力向上を図る。6回以上</p> <p>④-1 職員共有サーバーを活用し、校務の効率化を図るとともに、資産管理シートの活用の徹底を図る。</p> <p>④-2 情報セキュリティポリシーを遵守し情報漏洩防止を図る。</p> <p>④-3 出退勤管理システムを適切に運用し活用する。</p> <p>⑤ 保護者や地域に、本校の特色や学習活動などを積極的かつリアルタイムな情報を提供できるよう、ホームページの更新や充実を図る。</p> <p>⑥-1 生徒に向き合う時間を創出し、教育の質の向上に務める。アンケートを実施する。年2回</p> <p>⑥-2 校務処理の電子化の推進と共有化を図る。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① アグリ吉野川（鴨島駅前にぎわいづくり）は、6回開催した。スクールカフェ吉野川は、1回開催した。計7回</p> <p>② スーパーでの販売、農産物のふるさと納税返礼品採用、技術指導や商品開発等 年間25回</p> <p>③ 初任者研究授業等 8回 学校訪問 1回 年間9回</p> <p>④-1 校内（内部）サーバーのファイルフォルダの整理を実施した。情報資産の持ち出しは、管理職の押印を徹底した。100%</p> <p>④-2 規約チェックのアンケートの実施 ウイルスチェック 12回</p> <p>④-3 毎週、超過勤務の時間をチェックした。週1回</p> <p>⑤ 学校ホームページの更新 年37回</p> <p>⑥ タブレット端末や電子黒板の利用 教育Joruriの学校掲示板の活用回数 年32回</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>① アグリ吉野川（鴨島駅前にぎわいづくり）開催のチラシをそれぞれ1,000枚印刷し、広報に努めた。また、学校ホームページで周知した。</p> <p>② 生徒が教職員を対象に啓発を行った。パネル等を掲示し、普及・啓発に努めた。4回</p> <p>③ 研究授業8回（再掲）及び授業参観週間2回を実施した。計10回</p> <p>④-1 職員の伝達事項の入力等に共有サーバーを有効に活用した。資産管理シートの活用の徹底を図ることができた。</p> <p>④-2 情報セキュリティポリシーのアンケートを実施し、意識の高揚に努めた。</p> <p>④-3 超過勤務を把握し、ワークライフバランスの実現に努めた。</p> <p>⑤ 学校ホームページの更新回数は減少したが、生徒及び保護者が登録したシステムを利用して、迅速な情報提供を行った。</p> <p>⑥-1 7月及び12月の2回、アンケートを実施することができた。</p> <p>⑥-2 教育Joruriの学校掲示板の有効活用及びアンケートの電子化を促進した。</p>	<p>評価</p> <p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> アグリ吉野川（校内）は鴨島駅前にぎわいづくりとして、空き店舗（校外）で実施した。スクールカフェ吉野川はコロナ禍の影響もあり、年1回の開催にとどまった。収束状況を見極め、開催回数を増加させたい。 行政との連携により、本校農場生産物であるシャインマスカットが、ふるさと納税返礼品に選ばれている。事業所等のノウハウを農業・商業教育の充実に生かしていきたい。 初任者及び2年次の教職員を対象とした研究授業（教科・人権教育）や県教委訪問時の研究授業を実施し、参観者の授業力向上に努めた。 職員の伝達事項の記入や各種行事の写真保存等で、共有フォルダを利用している。情報資産持ち出し管理シートを活用し、管理を徹底した。 出退勤システムを利用して、超過勤務が、働き方改革に資する超過抑制を今後も目指していく。 学校ホームページの更新回数は大幅に減少したが、マスコミ等に教育活動の広報を積極的に行い、新聞に年15回掲載された。 タブレット端末や電子黒板を授業で有効活用できた。教育Joruriの学校掲示板を用いることにより紙媒体での周知を削減し、ペーパーレス化を推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響が大きく、イベント等がやりづらかった年度である。今後、コロナが収束すれば、高校生にもチャンスがやってくる。それを見据えて、新しいコンテンツを作っていくのいいのではないか。 外部の人に高校のことをより知ってもらえるよう、次年度はホームページの更新に力を入れたらよりいいと考える。 家庭等の状況によって、生徒のICTの格差はあるのか。 先生の授業でスライド等を活用すれば、毎年使えるし、時短にもなり、「働き方改革」につながるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> アグリ吉野川（校内）は、鴨島駅前にぎわいづくりとして、空き店舗（校外）で実施をに農産物販売にとどまらず、地域との交流や振興に寄与していきたい。スクールカフェ吉野川は、コロナ感行い、従来の運営に戻したい。 行政や事業所との連携では、農業科及び商業科とも密に連携を図り、専門教育を充実させる一助となっているが、担当教職員の負担軽減が課題である。 研究授業は、教職員の指導力向上に資する機会であり、積極的に実施授業の授業いように調整をしていく。 USBや定期考査の答案用紙の持ち帰り等は、常に管理職の許可をた上で持ち出しをしていた。また、ウイルスチェックや定期的に行うことができた。情報セキュリティポリシーの意識は高いので、次年度も継続していく。 学校ホームページの更新回数については、学校行事を中心に掲載を増やしたい。ただし、保護者や生徒への迅速な伝達については、従来どおりさくらメールを用いる。 学校教育の質を落とさずに、働き方改革を推進するためには、業務の平準化を一層推し進める必要がある。特定の教職員に業務が集中しないように、改善を目指す。
		【備考】	評価における「評定」の基準	A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成		

令和4年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
2 確かな学力の育成	<p>(全体レベル)</p> <p>① 基礎的・基本的な知識・技能を習得させ思考力・判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す。</p> <p>② 個性の伸張を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストとしての基礎をつくる。</p> <p>③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。</p> <p>④ 主権者意識を高める教育を推進する。</p> <p>⑤ 消費者教育（「エシカル消費」を含む）を推進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 学力向上に関する職員研修・教科会の実施 各学期1回以上</p> <p>①-2 基礎学力の定着や学習意欲の喚起を目的とした課題テストの実施 各学期1回</p> <p>①-3 学校評価アンケート ・生徒 授業満足度 85%以上 ・生徒 基礎学力向上にむけた取組満足度 普通教科 85%以上 専門教科 85%以上 ・生徒 定期考査期間中の家庭学習実施率 70%以上 ・保護者 学力向上・学習内容充実度 80%以上 ・職員 授業における新聞の活用度 70%以上</p> <p>①-4 図書館の利用促進 ・図書館貸出冊数 900冊以上 ・図書館入館者数 2,000人以上 ・図書館蔵書満足度 80%以上 ・図書館だよりの発行回数 年9回</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 学力向上に関する職員研修・教科会の実施 各学期1回実施</p> <p>①-2 課題テストの実施 各学期1回</p> <p>①-3 学校評価アンケート ・生徒 授業満足度 86.2% ・生徒 基礎学力向上取組満足度 普通教科 93.5% 専門教科 94.6% ・生徒 家庭学習実施率 73.9% ・保護者 学力向上・内容充実度 84.8% ・職員 授業における新聞の活用度 53.3%</p> <p>①-4 図書館の利用促進 ・図書館貸出冊数 501冊 ・図書館入館者数 2029人 ・図書館蔵書満足度 57.6% ・図書館だよりの発行回数 9回</p>	<p>評定</p> <p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>・ 高校生は専門的な知識を得ている段階から学べる人もあった。身に付けてほしい。</p> <p>・ 高校生の発想力や活用しやすさを一工夫することによって実践的に行うことができるようにしたい。</p> <p>・ エシカル関係が教育から世の中に浸透している。</p> <p>・ 主権者教育のアンケートで「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒が、開きのある両者間が。</p> <p>・ 生徒の家庭学習実施率が昨年度より大きく目立って向上している。授業態度も着いてきた生徒が増えている傾向がある。</p> <p>・ 図書館の利用促進については、入館者数は大きく増加した。貸出冊数が下りた。「朝読週間に真面目に取り組んでいるか」というアンケートに対し、89.7%の生徒が真面目に取り組んでいると回答しており、自分でも購入した本を持ってきている生徒が多くなった。要因として、本を読む習慣が徐々についている。</p> <p>・ 農業科は、室内園芸装飾技能士は5名の合格であった。フラワー装飾技能士は全員合格であった。日本農業技術検定3級は届かなかったが、高い合格率であった。2級は全員合格することが</p>	<p>・ 引き継ぎ、販売力アップ、エッセイ、通じやすい言葉で、一人ひとりが実践できるような授業を実施し、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す。</p> <p>・ 図書館の利用を促す方法として、クラス委員が図書委員の各本を感想文で紹介する。インテリジェントな紹介文を書く。1年次から3年次まで、最終学年まで、指導を通して、農業科・商業科とも、来年度も引き続き、各生徒が資格取得し、目標を積極的に達成できるようにしていく。</p> <p>・ SDGs やサステナブルと関連させながら、「エシカル消費」を身近なものとして、引き継ぎ、販売力アップ、エッセイ、通じやすい言葉で、一人ひとりが実践できるような授業を実施し、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す。</p> <p>・ 生徒は実際に投票箱等を用いて模擬選挙を行ってみたいという高感度を生かして、選挙活動に取り組んでほしい。</p>
		<p>② [農業] ・フラワー装飾・室内園芸装飾技能検定 3級 生物活用科3年 受験率 100% 合格率 100%</p> <p>・日本農業技術検定3級 農業科学科, 生物活用科1年 受験率 100% 合格率 90%以上</p> <p>[商業] ・(1年)全商3級1種目以上 取得率100% ・(2・3年)全商2級1種目以上 取得率 70%以上 取得者 20名以上 ・全商1級1種目以上 取得者 10名以上 ・全商1級2種目以上 取得者 5名以上 ・全商1級3種目以上 取得者 2名以上 ・日商簿記3級合格 2名以上</p>	<p>② [農業] ・フラワー装飾技能検定3級 合格率 100%</p> <p>・室内園芸装飾技能検定3級 合格率 45.5%</p> <p>・日本農業技術検定3級 受験率 100% 合格率 66.7%</p> <p>・日本農業技術検定2級(2/2) 受験率 100% 合格率 100%</p> <p>[商業] ・(1年)全商3級1種目以上 取得率92.0% ・(2・3年)全商2級1種目以上 取得率 63.3% 取得者 12名 ・全商1級1種目以上 2名 ・全商1級2種目以上 1名 ・全商1級3種目以上 1名 ・日商簿記3級合格 1名</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>・ 生徒の家庭学習実施率が昨年度より大きく目立って向上している。授業態度も着いてきた生徒が増えている傾向がある。</p> <p>・ 図書館の利用促進については、入館者数は大きく増加した。貸出冊数が下りた。「朝読週間に真面目に取り組んでいるか」というアンケートに対し、89.7%の生徒が真面目に取り組んでいると回答しており、自分でも購入した本を持ってきている生徒が多くなった。要因として、本を読む習慣が徐々についている。</p> <p>・ 農業科は、室内園芸装飾技能士は5名の合格であった。フラワー装飾技能士は全員合格であった。日本農業技術検定3級は届かなかったが、高い合格率であった。2級は全員合格することが</p>	<p>・ 引き継ぎ、販売力アップ、エッセイ、通じやすい言葉で、一人ひとりが実践できるような授業を実施し、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す。</p> <p>・ 図書館の利用を促す方法として、クラス委員が図書委員の各本を感想文で紹介する。インテリジェントな紹介文を書く。1年次から3年次まで、最終学年まで、指導を通して、農業科・商業科とも、来年度も引き続き、各生徒が資格取得し、目標を積極的に達成できるようにしていく。</p> <p>・ SDGs やサステナブルと関連させながら、「エシカル消費」を身近なものとして、引き継ぎ、販売力アップ、エッセイ、通じやすい言葉で、一人ひとりが実践できるような授業を実施し、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す。</p> <p>・ 生徒は実際に投票箱等を用いて模擬選挙を行ってみたいという高感度を生かして、選挙活動に取り組んでほしい。</p>
		<p>③-1 公開授業週間の参観率 80%以上</p> <p>③-2 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った研究授業の実施 年3回以上</p> <p>③-3 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った教科会等の実施 年3回以上</p> <p>③-4 生徒による「授業改善のためのアンケート」の実施 年2回 ・「学びの見直しと振り返り」、「学習規律」、「安心と受容」、「主体的能動的学び」の各項目に「あてはまる」と回答した生徒 80%以上</p>	<p>③-1 公開授業週間の参観率 70.9%</p> <p>③-2 「主体的・対話的で深い学び」の研究授業の実施 年12回</p> <p>③-3 「主体的・対話的で深い学び」教科会等の実施 年4回</p> <p>③-4 12月の「授業改善のためのアンケート」の実施 年1回 ・「学びの見直しと振り返り」、「学習規律」、「安心と受容」、「主体的能動的学び」の各項目に「あてはまる」と回答した生徒 82.4%</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・ 生徒の家庭学習実施率が昨年度より大きく目立って向上している。授業態度も着いてきた生徒が増えている傾向がある。</p> <p>・ 図書館の利用促進については、入館者数は大きく増加した。貸出冊数が下りた。「朝読週間に真面目に取り組んでいるか」というアンケートに対し、89.7%の生徒が真面目に取り組んでいると回答しており、自分でも購入した本を持ってきている生徒が多くなった。要因として、本を読む習慣が徐々についている。</p> <p>・ 農業科は、室内園芸装飾技能士は5名の合格であった。フラワー装飾技能士は全員合格であった。日本農業技術検定3級は届かなかったが、高い合格率であった。2級は全員合格することが</p>	<p>・ 引き継ぎ、販売力アップ、エッセイ、通じやすい言葉で、一人ひとりが実践できるような授業を実施し、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す。</p> <p>・ 図書館の利用を促す方法として、クラス委員が図書委員の各本を感想文で紹介する。インテリジェントな紹介文を書く。1年次から3年次まで、最終学年まで、指導を通して、農業科・商業科とも、来年度も引き続き、各生徒が資格取得し、目標を積極的に達成できるようにしていく。</p> <p>・ SDGs やサステナブルと関連させながら、「エシカル消費」を身近なものとして、引き継ぎ、販売力アップ、エッセイ、通じやすい言葉で、一人ひとりが実践できるような授業を実施し、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す。</p> <p>・ 生徒は実際に投票箱等を用いて模擬選挙を行ってみたいという高感度を生かして、選挙活動に取り組んでほしい。</p>
		<p>④-1 主権者教育に関するホームルーム活動や学校行事の実施 年2回以上</p> <p>④-2 「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒 75%以上</p>	<p>④-1 ホームルーム活動、学校行事の実施 1回</p> <p>④-2 「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒 73.6%</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・ 生徒の家庭学習実施率が昨年度より大きく目立って向上している。授業態度も着いてきた生徒が増えている傾向がある。</p> <p>・ 図書館の利用促進については、入館者数は大きく増加した。貸出冊数が下りた。「朝読週間に真面目に取り組んでいるか」というアンケートに対し、89.7%の生徒が真面目に取り組んでいると回答しており、自分でも購入した本を持ってきている生徒が多くなった。要因として、本を読む習慣が徐々についている。</p> <p>・ 農業科は、室内園芸装飾技能士は5名の合格であった。フラワー装飾技能士は全員合格であった。日本農業技術検定3級は届かなかったが、高い合格率であった。2級は全員合格することが</p>	<p>・ 引き継ぎ、販売力アップ、エッセイ、通じやすい言葉で、一人ひとりが実践できるような授業を実施し、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す。</p> <p>・ 図書館の利用を促す方法として、クラス委員が図書委員の各本を感想文で紹介する。インテリジェントな紹介文を書く。1年次から3年次まで、最終学年まで、指導を通して、農業科・商業科とも、来年度も引き続き、各生徒が資格取得し、目標を積極的に達成できるようにしていく。</p> <p>・ SDGs やサステナブルと関連させながら、「エシカル消費」を身近なものとして、引き継ぎ、販売力アップ、エッセイ、通じやすい言葉で、一人ひとりが実践できるような授業を実施し、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す。</p> <p>・ 生徒は実際に投票箱等を用いて模擬選挙を行ってみたいという高感度を生かして、選挙活動に取り組んでほしい。</p>
		<p>⑤-1 消費者教育（「エシカル消費」を含む）に関する学校行事の実施 年2回以上</p> <p>⑤-2 「エシカル消費を身近なものとして実践することができる」と回答した生徒 70%以上</p>	<p>⑤-1 消費者教育（「エシカル消費」を含む）の学校行事の実施 2回</p> <p>⑤-2 「エシカル消費を身近なものとして実践することができる」と回答した生徒 88.5%</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・ 生徒の家庭学習実施率が昨年度より大きく目立って向上している。授業態度も着いてきた生徒が増えている傾向がある。</p> <p>・ 図書館の利用促進については、入館者数は大きく増加した。貸出冊数が下りた。「朝読週間に真面目に取り組んでいるか」というアンケートに対し、89.7%の生徒が真面目に取り組んでいると回答しており、自分でも購入した本を持ってきている生徒が多くなった。要因として、本を読む習慣が徐々についている。</p> <p>・ 農業科は、室内園芸装飾技能士は5名の合格であった。フラワー装飾技能士は全員合格であった。日本農業技術検定3級は届かなかったが、高い合格率であった。2級は全員合格することが</p>	<p>・ 引き継ぎ、販売力アップ、エッセイ、通じやすい言葉で、一人ひとりが実践できるような授業を実施し、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す。</p> <p>・ 図書館の利用を促す方法として、クラス委員が図書委員の各本を感想文で紹介する。インテリジェントな紹介文を書く。1年次から3年次まで、最終学年まで、指導を通して、農業科・商業科とも、来年度も引き続き、各生徒が資格取得し、目標を積極的に達成できるようにしていく。</p> <p>・ SDGs やサステナブルと関連させながら、「エシカル消費」を身近なものとして、引き継ぎ、販売力アップ、エッセイ、通じやすい言葉で、一人ひとりが実践できるような授業を実施し、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す。</p> <p>・ 生徒は実際に投票箱等を用いて模擬選挙を行ってみたいという高感度を生かして、選挙活動に取り組んでほしい。</p>

	活動計画	活動計画の実施状況	できた。		
(下位組織レベル) ① 基礎学力の向上に向けた取組の実施 ② 各種資格取得の奨励と補習体制構築による合格率の向上 ③ 授業改善の推進 ④ 公民科をはじめとした各教科の授業やホームルーム活動、学校行事等の実施 ⑤ 各教科の授業やホームルーム活動、学校行事等の実施	①-1 学力向上委員会において取組の検証を行う。 ①-2 4月に基礎力診断テストを、9月と1月に一部外部テストを利用した実力テストを実施し、基礎力の定着具合を把握する。 ①-3 生徒・保護者・職員を対象とした学校評価アンケート結果を用いて取組の検証を行う。 ①-4 図書館だよりを発行したり、図書委員による呼びかけや購入希望図書アンケートを実施したりすることで、図書館の積極的な利用や貸出冊数の増加を図る。 ② 資格試験の実施に関して、生徒への周知を徹底する。また、取得率向上に向けて、補習体制を強化する。 ③-1 公開授業週間を学期に1回ずつ実施し授業改善の機会とする。 ③-2 研究授業を実施し、研究協議を通して授業改善を図る。 ③-3 公開授業週間後に、教科会等を開き情報交換、情報共有を図る。 ③-4 生徒による授業評価を主要教科で行いその結果をもとに授業改善を図る。 ③-5 タブレットの導入に伴い様々なツールを用いることで生徒の興味・関心を促し、基礎学力の向上を図る。PDCAサイクルに基づいた取組を行い、積極的かつ効果的に活用する。 ④-1 主権者教育指導計画に基づいて実施する。 ④-2 生徒を対象としたアンケートを実施する。 ⑤-1 事業計画書に基づいて実施する。 ⑤-2 生徒を対象としたアンケートを実施する。	①-1 学力向上委員会において取組の検証を行った。 ①-2 4月に基礎力診断テスト、9月と1月に基礎学力テスト(一部教科は外部テスト)を実施し、基礎力の定着具合を把握した。 ①-3 生徒・保護者・職員を対象とした学校評価アンケート結果を用いて、取組の検証を実施した。 ①-4 図書館だよりを発行したり、図書委員による呼びかけや購入希望図書アンケートを実施したりすることで、図書館の積極的な利用や貸出冊数の増加を図った。 ②-1 資格試験の実施に関して、生徒への周知を徹底している。また、取得率向上に向けて補習を実施した。 ③-1 公開授業週間を学期に1回ずつ実施した。 ③-2 研究授業を実施し、研究協議を通して授業改善を図った。 ③-3 公開授業週間後に教科会等を開き、情報交換、情報共有を図った。 ③-4 生徒による授業評価を主要教科で行いその結果をもとに授業改善を図った。 ③-5 各教科でタブレットを効果的に使用し、生徒が興味・関心を持てるよう促した。より良い授業作りのために、PDCAサイクルに基づいた取組を行った。 ④-1 主権者教育指導計画に基づいて実施した。 ④-2 生徒を対象としたアンケートを実施した。 ⑤-1 事業計画書に基づいて実施した。 ⑤-2 生徒を対象としたアンケートを12月に実施・集計した。	・ 商業科はほとんど項目で目標値に達することができず、課題が残った。 ・ 公開授業参観率が大きく上昇した。研究授業を行った教員も増え、参観する教員も増えた。 ・ アンケート結果から、タブレットを使用することで興味・関心を持って学習に取り組んでいると答えた生徒が87%という結果であった。電子黒板やタブレットの効果的な使用ができていと考えられる。 ・ 一昨年まで実施していた吉野川市選挙管理委員会から投票箱や記載台を借りて実施していた生徒会役員選挙は、感染防止の観点から今年度も実施できなかった。 ・ 7月に、3年生を対象とした主権者教育の出前講座を実施することができ、立憲主義や選挙の意義について、生徒の意識を高揚させることにできた。		・ 3年生の主権者教育の出前講座を実施することができ、立憲主義や選挙の意義について、生徒の意識を高揚させることにできた。

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和4年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価		学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	総合評価		
3 生徒指導の徹底	<p>(全体レベル)</p> <p>① 基本的な生活習慣の確立を図り、身だしなみを整え、規範意識や道徳心を高める生徒指導を推進する。</p> <p>② 教職員の共通理解のもと、保護者や地域社会との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。</p> <p>③ 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・早期対応に努める。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 日常生活指導による基本的な生活習慣の確立</p> <p>② 保護者、地域社会、関係機関との連携</p> <p>③ 教職員間での情報の共有化及び連携強化</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 校門での登校指導実施率 100%</p> <p>①-2 校内外巡視の実施 100%</p> <p>①-3 頭髪服装指導時における違反率 各学年3.5%以下</p> <p>①-4 遅刻指導の徹底遅刻率 1.2%以下</p> <p>②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時</p> <p>②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談の処理を徹底 随時</p> <p>③-1 学年別の情報交換会実施 每学期1回</p> <p>③-2 いじめのアンケートの実施 年3回</p> <p>③-3 いじめ行為等の事案が発生した時には速やかに委員会を開き適切に対応する。 随時</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 毎朝校門で頭髪服装指導を中心とした登校指導を実施する。</p> <p>①-2 生徒指導課を中心に、毎月1回、学校安全の日を実施し、学校周辺の安全確保を図る。</p> <p>①-3 生徒指導課を中心に、毎月1回、全校集会時に服装頭髪検査を行い、事後指導・継続指導を徹底する。</p> <p>①-4 遅刻が多い生徒との面談等を実施し改善を図る。</p> <p>②-1 職員朝会において共通理解を図る。</p> <p>②-2 保護者や地域住民・補導センターの苦情や相談に対して、迅速かつ誠実に対応する。</p> <p>③-1 年度初めには学年別に情報交換会を行い、生徒の家庭環境や学校生活に関する情報を共有する。</p> <p>③-2 アンケートの結果により、面談等を実施し早期発見に努める。</p> <p>③-3 事案が発生時、迅速に組織的な対応を行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 校門での登校指導実施率 100%</p> <p>①-2 校内外巡視の実施 100%</p> <p>①-3 頭髪服装指導時における違反率 1%</p> <p>学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒服装頭髪 90.0% ・ 教職員服装頭髪 71.1% ・ 保護者服装頭髪 93.5% <p>①-4 遅刻指導の徹底 遅刻率 2.68%</p> <p>②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達を、必要に応じて徹底した。</p> <p>②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談があった事案については、真摯に対応した。</p> <p>③-1 学年別の情報交換会を每学期1回実施した。</p> <p>③-2 いじめのアンケートを每学期初めに実施し、いじめや嫌がらせの早期発見・早期対応に努めた。</p> <p>③-3 必要に応じて、随時実施した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 毎朝校門で頭髪服装指導を中心とした登校指導を実施した。</p> <p>①-2 生徒指導課を中心に、毎月1回、学校安全の日を実施した。</p> <p>①-3 生徒指導課を中心に、基本的に毎月1回全校集会時等を利用して服装頭髪検査を行い、事後指導・継続指導を徹底した。</p> <p>①-4 遅刻が多い生徒との面談等を実施し改善を図った。</p> <p>②-1 随時、職員朝会において共通理解を図った。</p> <p>②-2 保護者や地域住民・補導センターの苦情や相談に対して、迅速かつ誠実に対応した。</p> <p>③-1 年度初めに学年別に情報交換会を行い、生徒の家庭環境や学校生活に関する情報を共有した。</p> <p>③-2 アンケートの結果により、面談等を実施し早期発見に努めた。</p> <p>③-3 事案の発生時には、迅速かつ組織的な対応を心がけた。</p>	<p>評価</p> <p>①-1 校門での登校指導実施率 100%</p> <p>①-2 校内外巡視の実施 100%</p> <p>①-3 頭髪服装指導時における違反率 1%</p> <p>学校評価アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒服装頭髪 90.0% ・ 教職員服装頭髪 71.1% ・ 保護者服装頭髪 93.5% <p>①-4 遅刻指導の徹底 遅刻率 2.68%</p> <p>②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達を、必要に応じて徹底した。</p> <p>②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談があった事案については、真摯に対応した。</p> <p>③-1 学年別の情報交換会を每学期1回実施した。</p> <p>③-2 いじめのアンケートを每学期初めに実施し、いじめや嫌がらせの早期発見・早期対応に努めた。</p> <p>③-3 必要に応じて、随時実施した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 毎朝校門で頭髪服装指導を中心とした登校指導を実施した。</p> <p>①-2 生徒指導課を中心に、毎月1回、学校安全の日を実施した。</p> <p>①-3 生徒指導課を中心に、基本的に毎月1回全校集会時等を利用して服装頭髪検査を行い、事後指導・継続指導を徹底した。</p> <p>①-4 遅刻が多い生徒との面談等を実施し改善を図った。</p> <p>②-1 随時、職員朝会において共通理解を図った。</p> <p>②-2 保護者や地域住民・補導センターの苦情や相談に対して、迅速かつ誠実に対応した。</p> <p>③-1 年度初めに学年別に情報交換会を行い、生徒の家庭環境や学校生活に関する情報を共有した。</p> <p>③-2 アンケートの結果により、面談等を実施し早期発見に努めた。</p> <p>③-3 事案の発生時には、迅速かつ組織的な対応を心がけた。</p>	<p>総合評価</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">(所 見)</p> <p>・ 本年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対面で行われる予定だった生徒指導関係の行事もリモート形式での実施にせざるを得なかった。</p> <p>・ 生活面で改善が必要な生徒の保護者に来校していただき、改善に向けての意見交換等も十分に行うことができなかった。そのため、指導の徹底が難しく、遅刻数や頭髪服装の内規違反を何度も繰り返す生徒が多く見受けられ、遅刻率では目標とする数値には届かなかった。</p> <p>・ 服装頭髪に関する学校評価に関するアンケート結果を昨年と比較すると、保護者の評価は93.5%と約6%上昇しているものの、生徒自身の評価は-2.6%の90%、教職員の評価も約-16%の77.1%と昨年より下がっている。保護者から得られた回答は数値が高くなってきているが、この結果はアンケートに協力的な保護者のみによるものであることを考慮すると実質的には生徒や教職員の方が現状をより反映しているように思われる。</p> <p>・ 遅刻率に関して2.68%と、目標を達成できなかった。その原因としては、特定の教人が何度も遅刻を繰り返すことが挙げられる。3クラスが4%を超え、全体の数字を大きく引き上げた。その一方1%に満たないクラスも</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>・ いじめの形としては、目に見えるものは減ってきていると思うが、どのようなものが起こる傾向にあるのか。</p> <p>・ もし、いじめにあった場合にどのようなように対処するのか、という教育も必要になってくるのではないかと。対処法を学ぶことで、社会に出たときハラスメント等があったときに役立つ。</p> <p>・ 現時点で不登校の生徒はいるのか。</p> <p>・ 学校がおもしろくないという理由で、学校に行かない子もいると聞く。そのような子がいた場合、家庭と連携して対処したり、迷惑行為を起こさせないような指導をしたりはしているのか。</p> <p>・ 遅刻に関して、クラスによって差があると書いてあるが、どのような違いがあるのか。</p>	<p>次年度の課題と今後の改善方策</p> <p>・ 3年間続いたコロナ禍の影響からか、生徒の行動様式に内向きな変化が現れてきているように思われる。コロナ後に現れるであろう生徒の変化にも対応できるように、生徒の些細な変化を見逃すことなく、適切なアドバイスや指導を継続して行っていきたい。</p> <p>・ SNSによる誹謗中傷等の友人間トラブルが顕在化し、大きな生徒指導上の問題となっている。遅刻回数が多い生徒の表情に気を配る等、個別面談や声かけを行い、家庭との連携を深める中で、トラブルの未然防止や早期解決に努めていきたい。</p> <p>・ 保護者の協力も得ながら、遅刻回数が減るよう働きかけたい。</p> <p>・ 校内のみならず警察と連携し、より強い交通安全の呼びかけを定期的に行い、交通事故の未然防止を図りたい。</p> <p>・ 教員それぞれが生徒指導観や価値観を持つ中で、一体感を持った生徒指導を行う難しい環境にあるが、教職員間で共通理解を図り、統一した生徒指導を行えるよう、努めていきたい。</p>

4クラスあるなどクラスによる違いが大きかった。また、1学期平均は1.34%であったが、2学期は2.8%になる等、進路が決定した3年生の生活リズムの乱れが原因であると思われる。

- ・ 本年度、夏休み前に小松島海上保安庁と連携し、新たに「水難事故防止講習会」を実施した。コロナの感染拡大を受けリモートでの開催となったが、海水浴時における「離岸流」や「危険な水中生物」への注意喚起を、海上保安庁の職員に行ってもらったことで、水難事故防止に向け、より強い働きができたように思われる。
- ・ 毎年10月半ばに行っている自動車運転免許取得説明会において、新たに阿波吉野川署の交通課長に交通安全講話を行ってもらった。長年の勤務経験の中で感じてこられた交通事故の恐ろしさや悲惨さを、保護者や生徒に直接語りかけていただいた。例年以上に有意義な説明会が実施できた。
- ・ いじめや嫌がらせにあった生徒を守ることを最優先に考えながら、加害生徒には毅然とした態度で指導にあたる。
- ・ SNSにおいて、問題が起こらないようにする指導を今後も継続していく。
- ・ 保護者だけが悩みを抱え込まないように、今後も保護者と密に連携を取っていく必要がある。

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和4年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価
4 人権教育及び特別支援教育の推進	(全体レベル) ① 人権尊重を基盤とする普遍的・個別的な視点に立ち、学校教育活動全体を通して人権教育を推進する。 ② 自他を大切にする心や態度を育成する。 ③ 特別支援教育を推進し、個々に応じた支援を行う。 (下位組織レベル) ① 人権学習ホームルーム活動の充実 ② 人権啓発活動の充実 ③ 教育相談・特別支援教育の充実	①-1 人権学習ホームルーム活動についての生徒の満足度 70%以上 ①-2 人権教育教職員研修の実施回数 年8回	①-1 人権学習ホームルーム活動についての生徒の満足度 89% ①-2 人権教育教職員研修 8回実施	A	B (所見)
		②-1 人権映画会の生徒の満足度 80%以上 ②-2 文化祭展示用ポスター・標語・書道作品を作成する。 1年生全員提出 ②-3 人権の日の人権委員による啓発活動 年9回	④-1 人権映画会の生徒の満足度 90% ②-2 文化祭展示用ポスター・標語・書道作品 授業選択者全員提出 ②-3 人権の日の人権委員による啓発活動 年9回実施	A	
		③-1 教育相談ケース会の実施回数 年1回 (必要に応じて適宜) ③-2 心とからだの健康調査の活用 年3回 ③-3 特別支援教育研修会実施回数 年1回 ③-4 二者面談・三者面談に人権・相談課員の同席 適宜 ③-5 障がい者雇用希望者への職場見学、就労体験の情報提供 適宜	③-1 教育相談ケース会 実施せず ③-2 心とからだの健康調査 年3回実施 ⑤-3 特別支援教育研修会 実施せず ③-4 二者面談・三者面談に人権・相談課員の同席 要請なし ③-5 該当生徒がおらず実施せず。	B	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 人権教育主事と学年主任・担任との連携を図り人権ホームルーム活動内容を準備する。 ①-2 様々な人権課題について実態から学ぶ研修を実施する。	①-1 学年団が主体となった人権ホームルーム活動研修会が実施できた。 ①-2 災害と人権をテーマにワークショップ中心の教員研修会を実施		
		②-1 人権映画鑑賞によって人権意識を高める。 ②-2 夏季休業中の人権学習課題として、生徒から啓発作品を募集する。 ②-3 「人権の日」の事前の人権委員会を開き、人権委員の研修を実施する。 ②-4 SDGsの視点からの啓発活動を実施し、エシカルクラブや家庭クラブとの連携を図る。 ②-5 社会問題研究部の活動を活性化し、中高生による人権交流事業への参加者を増加させる。	②-1 LGBTQがテーマの映画鑑賞会を実施した。 ②-2 人権標語と「ホットHOTメッセージ」の取組に全生徒が参加 ②-3 人権委員会 年間10回実施 ②-4 家庭クラブと連携し、こども食堂へのボランティアを4回実施 ②-5 中高生による人権交流事業への参加者は昨年度5名から12名に増加した。		
		③-1 共通理解を図るため、教育相談ケース会を実施する。 ③-2 スクールカウンセラーとの連携を図る。 ③-3 心とからだの健康調査を実施する。 ③-4 特別支援教育の理解を進めるため、研修会を実施する。 ③-5 相談内容に応じて、関係機関との連携・相談を図る。 ③-6 地域の障がい者就労支援機関に協力を依頼する。	③-1 教育相談ケース会は実施しなかったが、担任を中心に教職員間の共通理解を図った。 ③-2 スクールカウンセラーと連携できた。 ③-3 各学期1回実施し、結果を利用できた。 ③-4 特別支援教育研修会は実施せず。 ③-5 相談の要請はなく実施せず。 ③-6 該当生徒がおらず実施せず。		

				<ul style="list-style-type: none"> 様々な研修会の要請はあるが、多忙な年間行事の中に組み込むことができなかつたことは残念である。 	<ul style="list-style-type: none"> 用しやすいよう広報活動を展開する。 様々な生徒が在籍する中、教育相談や特別支援教育の研修ができていなかったもので、計画したい。
--	--	--	--	--	--

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和4年度学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価		学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		評価		
5 進路指導の充実	(全体レベル) ① キャリア教育を通して、望ましい勤労観・職業観の育成と自らの将来設計の構築を図る。 ② 個に応じたきめ細やかな進路指導を徹底する。 ③ 進路先の確保及び定着化のための指導体制の充実に努める。 (下位組織レベル) ① キャリア教育の推進 ② 生徒一人一人の希望がかなう進路実現 ③ 生徒の離職率の削減	評価指標 ①-1 外部講師招聘回数 年3回 ①-2 校内・校外ガイダンス実施 年3回 ①-3 進路補習実施 夏期休業中に5回以上 ①-4 企業見学・職場体験の実施 25事業所程度	評価指標の達成度 ①-1 外部講師招聘回数 3回 ①-2 校内・校外ガイダンス実施 11回 ①-3 進路補習実施 4回 ①-4 企業見学・職場体験の実習 47事業所	評定 A	総合評価 B (所見)	<ul style="list-style-type: none"> 求人が1人につき7～8社というのはすごいことである。生徒が選べる環境にあるのは素晴らしい。 求人数が増えている要因としては、どのようなことが考えられるか。 「鴨島駅前にぎわいづくり」によって、地域ブランディングがしっかりできている。 企業見学については例年通り実施した。感染予防対策を徹底した上で見学を行った。 コロナ禍のため県外企業への訪問は、訪問先を減らし実施した。訪問を控えて欲しいと要望があった企業には進路概況を郵送する等本校の情報提供に努めた。 「キャリア・パスポート」等を活用し、進路ホームルーム活動を行った。生徒が自ら記録し、将来に向けての取り組み等や進捗状況の自己評価ができた。 コロナウイルス感染症拡大による制限がある中で、企業訪問などの進路開拓が思うように実施できなかった。 企業は、採用する生徒には「生産性」を求めている。知識を持っていることも大切だが、きっちりとした時間意識をもつことが以前よりニーズが高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職については、今年度についてもコロナ禍の影響などが要因となり、求人数は昨年度より増加したが、業種によっては減少したままであった。来年度については、原材料等の高騰により不透明な状況が続くが、生徒が希望する進路選択ができることを期待したい。 就職希望生徒の職種・企業名などを早期に実態把握を行い、早めの求人開拓に努めたい。 来年度についても、大学進学等の入試制度の変更への対応を考え、進学希望者に対しても放課後など、より積極的に補習を行い、生徒の学力の底上げを図りたい。 高校生が就職後3年以内に離職するケースが依然として高い。離職する生徒を少なくするために、1・2年生の学年全員の生徒がインターンシップ等に参加できる環境を整えたい。
		②-1 保護者への説明及び情報提供 年2回 担任の面談実施回数 各人2回 ②-2 1・2年進路ホームルーム活動の実施 年4回 ②-3 就職・進学資料の提供 年5回 ②-4 特別な支援を必要とする生徒の進路相談 随時	②-1 保護者への説明及び情報提供 担任の面談実施回数 1回 ②-2 ホームルーム活動の実施 3回 ②-3 就職・進学資料の提供 3回 ②-4 特別な支援を必要とする生徒の進路相談 随時	B			
		③-1 企業訪問の実施 200事業所 ③-2 学年ごとに教員研修会を実施 年2回	③-1 企業訪問の実施 101事業所 ③-2 学年ごとに教員研修会実施 1回	B			
		活動計画 ①-1 就職ガイダンス等において外部講師の活用を図る。 ①-2 分野別、職業体験型、就職・進学説明会を実施する。 ①-3 就職・進学に向けた5教科の補習を実施する。 ①-4 希望する生徒・企業と連携して実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 就職ガイダンス等において外部講師の活用を図った。 ①-2 分野別、職業体験型、就職・進学説明会を実施した。 ①-3 就職・進学に向けた5教科の補習を実施した。 ①-4 希望する生徒・企業と連携して実施した。				
	②-1 保護者対象の進路ガイダンスや面談等を実施する。 ②-2 「キャリアノート」等を活用した進路ホームルーム活動を実施する。 ②-3 全校集会等を活用し、進路に対する啓発を行うとともに、進路委員を通じて各ホームルームに資料提供する。 ②-4 特別な支援を必要とする生徒に対し、担当教員や外部組織と連携して進路指導を進める。	②-1 保護者対象の進路ガイダンスや面談等を実施した。 ②-2 「キャリア・パスポート」等を活用した進路ホームルーム活動を実施した。 ②-3 全校集会等を活用し、進路に対する啓発を行うとともに、進路委員を通じて各ホームルームに資料を提供した。 ②-4 特別な支援を必要とする生徒に対し、担当教員や外部組織と連携して進路指導を進めた。					
	③-1 新規の企業訪問を実施するなど、積極的な進路開拓を行う。 ③-2 学年会等を活用し、進路指導の研修を実施する。	③-1 新規の企業に積極的な進路開拓を実施した。 ③-2 学年会等を活用し、進路指導の研修を実施した。					

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和4年度学校評価総括評価表

自 己 評 価			学 校 評 価		学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	
6 活力ある特別活動の推進	(全体レベル) ① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主的・実践的な態度を育成する。 ② 1年生の部活動全員加入による部活動の活性化を図る。 ③ 地域の環境整備など地域の活性化に貢献できる連携活動を推進する。 (下位組織レベル) ① 新学習指導要領に基づいたホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事の活性化 ② 部活動及び農業クラブ活動の活性化並びに学校リーダーの育成 ③ 自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動の推進	①-1 生徒会活動に対する満足度 75% ①-2 あいさつ運動実施 年8回以上 ①-3 ホームルーム活動の充実度 75% ①-4 各種委員会の充実度 75% ①-5 学校祭の満足度 78%	①-1 生徒会活動満足度 80% ①-2 あいさつ運動実施 4回 ①-3 ホームルーム活動充実度 75% ①-4 各種委員会の充実度 75% ①-5 学校祭の満足度 80%	B	B (所見)	<ul style="list-style-type: none"> 評価がBになっているが、コロナ禍であることを考慮すると、十分活動されているのではないか。 部活動における入部率90%以上を目指したい。実現に向けて部活動委員会を開催し各部活動のキャプテンとのコミュニケーションを取り生徒の意見を吸い上げたい。 農業科・商業科とも来年度も継続的な指導を通して各競技会、研究発表会等で全国大会出場者の増加を目指したい。 生徒たちに「見える応援を」ということで、試合日程の公開や応援メッセージの掲示板作成を行いたい。
		②-1 部活動加入率 1年100%、2・3年80% ②-2 各部主将・部長会 年3回以上 ②-3 各部での取り組みと目標 (商業) 全商主催各種競技会県予選 各大会 3位以内入賞 (農業) 日本学校農業クラブ各種発表会県予選において、最優秀賞受賞 2部門以上 押し花アート、フラワーアレンジメント等のコンクール出展 全国入賞：1作品以上 県内入賞：5作品以上	②-1 部活動加入率 1年81%・2年62%・3年63% ②-2 各部主将・部長会 1回 ②-3 各部での取り組みと目標 (商業) ワープロ競技会 個人競技 3位入賞 (農業) 日本学校農業クラブ各種発表会第73回日本農業クラブ全国大会 農業鑑定競技会 園芸部門優秀賞 押し花、フラワーアレンジメント等のコンクール 全国入賞：1作品 県内入賞：8作品			
		③ 地域清掃を年に2回以上行う。	③ 地域清掃 4回	B		
		①-1 生徒が自発的に活動し、学校生活の充実や改善について指導する。 ①-2 校門であいさつ運動を毎月実施する。 ①-3 各代表生徒を中心に鴨島駅周辺・通学路の清掃活動等を生徒が主体となった活動を実施する。各環境委員を中心に地域の方と連携し、江川周辺の環境整備活動を実践する。 ①-4 生徒会を中心に企画立案した学校祭を開催する。	①-1 生徒が自発的に活動し、学校生活の充実や改善について指導をした。 ①-2 校門であいさつ運動を実施した。 ①-3 各代表生徒を中心に鴨島駅周辺・通学路の清掃活動等を生徒が主体となった活動を実施した。江川周辺の環境整備活動は実施せず。 ①-4 生徒会を中心に企画立案した学校祭を開催した。		B	
②-1 部員を積極的に勧誘し活性化を図り、入部率を向上させる。部活動紹介や勧誘方法を工夫する。 ②-2 各部主将・部長を中心にルール・マナーの向上を指導させる。 ②-3 各部による活発な競技活動の展開を目指す。プロジェクト発表及び意見発表について、専任の教員が担当する。更に、各顧問等の指導により、アグリクラブでの質の高い作品作りを展開する。	②-1 部員を積極的に勧誘し活性化を図ることで、入部率の向上を図った。 ②-2 各部主将・部長を中心にルール・マナーの向上を指導した。 ②-3 情報処理部によるワープロ競技会においては、個人競技で県大会第3位となった。また、農業クラブにおける農業鑑定競技会では、全国大会に2名が出場し、1名が優秀賞を受賞した。押し花アートは放美展に出品し、四国大学賞1作品、その他5作品が入賞した。	B				
③ 学校周辺及び鴨島駅までの通学路の清掃活動を生徒会と環境美化委員が行う。	③ 学校周辺及び鴨島駅までの通学路の清掃活動を生徒会と部活動有志、環境美化委員が行った。		B			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和4年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	
7 防災・環境教育の推進	(全体レベル) ① 自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 ② 「新学校版環境ISO」承認取得校としての活動を推進する。 ③ 食の安全・安心の観点からの教育を推進する。 (下位組織レベル) ① 防災教育の充実及び自己の健康管理能力の育成 ② 節電・節水・ゴミの分別を行い、校内美化および適正な農薬散布の徹底 ③ 食育の実施	①-1 防災に関する情報提供 年5回以上 ①-2 避難訓練(地震火災洪水) 年2回実施 ①-3 防災クラブの活動 年5回以上 ①-4 保健だよりの発行 年8回 ①-5 各種講演会の実施 年3回 ①-6 健診結果を通知 随時 ①-7 心身の健康に関する保健調査 年3回	①-1 防災に関する情報提供 5回 ①-2 避難訓練 2回 ①-3 防災クラブの活動 5回 ①-4 保健だよりの発行 8回 ①-5 各種講演会の実施 2回 ①-6 健診結果を通知 随時 ①-7 心身の健康に関する保健調査 3回	A	B (所見) ・ 昨年度に引き続き、毎月の全校集会で呼びかけを行うなどCOVID-19感染症の安全対策(マスク着用、手洗い、うがい)を徹底した。 ・ 感染症対策として生徒保健委員が作成した啓発ポスターの掲示や手指消毒液・手洗い石けん液の補充などの環境整備を行った。 ・ 保健調査の結果、学年が上がるにつれて遅寝・遅起き・朝食欠食等の傾向がみられたため、保健だよりや学校保健委員会で啓発を行った。 ・ 校内での生活環境を整えるため、生徒への啓発や清掃の進め方を見直し、より良い環境で過ごせるようになった。 ・ 避難訓練はコロナ禍のため、消防署参加の指導は取り止めた。感染症対策をした上で、学校単独での避難訓練及び消火訓練を全員参加で実施した。 ・ イオウ合剤は果樹の休眠期における病虫害防除のため、用法を守り1回使用した。	
		②-1 電気・水道の使用量を10%の上限に押さえる。 ②-2 毎日の清掃に取り組んでいる。 85%以上 ②-3 学校はゴミの落ちていない整った環境が保たれている。 80%以上 ②-4 毒劇物・農薬使用の軽減 イオウ合剤の使用年1回以下	②-1 電気使用量は、夏と冬においては前年度比140%に達した月もあるが、概ね前年度比110%以内に抑えることができた。水道使用量についてははすべての月で前年度比110%を上回る結果となった。 ②-2 毎日の清掃に取り組んでいる。 91.6% ②-3 学校はゴミの落ちていない整った環境が保たれている。 77.4% ②-4 毒劇物・農薬使用の軽減 1回			B
		③-1 食育通信の発行 年1回 ③-2 食育関連講習会の実施 年3回以上	③-1 食育通信の発行 1回 ③-2 食育関連講習会の実施 1回			
活動計画		活動計画の実施状況				
①-1 防災計画を周知徹底するとともに防災情報を提供する。 ①-2 防災訓練の実施及び避難経路・避難場所・危険箇所・防災備蓄品の確認を実施する。 ①-3 学校内外で活動を行い、その活動内容を報告する。 ①-4 保健だよりを発行する。 ①-5 心肺蘇生法講習会・歯科保健指導等を実施する。 ①-6 保護者に検診結果を通知する。 ①-7 保健調査を実施し心身の健康問題を把握する。	①-1 防災計画を周知徹底するとともに防災情報を提供した。 ①-2 防災訓練の実施及び避難経路・避難場所・危険箇所・防災備蓄品の確認及び防災講演会の実施を計画している。 ①-3 学校内外における活動内容の報告を予定中。 ①-4 保健だよりを発行した。 ①-5 心肺蘇生法講習会を実施した。 ①-6 保護者に検診結果を通知した。 ①-7 保健調査を実施し心身の健康問題を把握に努めた。					
②-1 水道量・電気量の月別の使用量をグラフ化して掲示し、節電・節水の呼び掛けを行う。 ②-2 年2回、生徒・職員にアンケート調査を行う。 ②-3 クリーンデイの実施と通常清掃活動を行い、状況等についてアンケート調査を行う。 ②-4 適正な農薬散布を徹底する。	②-1 水道量・電気量の月別の使用量をグラフ化して掲示し、節電・節水の呼び掛けを行った。 ②-2 年2回、生徒・職員にアンケート調査を行った。 ②-3 クリーンデイを実施した。状況についてのアンケート調査は今後行う予定。 ②-4 適正な農薬散布を徹底した。					
③-1 食育通信の編集方法に工夫を加え、より効果的に啓発を行う。 ③-2 PTA研修活動・家庭クラブ活動で食育に関する講習会を計画し、食事の重要性を呼びかける。	③-1 食育通信の編集方法に工夫を加え、より効果的に啓発を行った。 ③-2 家庭クラブ活動で食育に関する講習会を計画し、食事の重要性を呼びかけた。					

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成